様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：２３１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５９３１８６

研究課題名（和文）看護実践変革モデル－看護専門外来システムの運用と評価に関する研究

研究課題名（英文）Innovation model of nursing practice-Research on evaluation and management of a nursing special outpatient department system

研究代表者
岩永　喜久子（Iwanaga, Kikuko）

新潟県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：４０３４６９３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：専門的能力のある看護師や助産師が運営する外来として、モデルの大学病院に診療部門の外来と連携した看護専門外来のシステムを開発し、全国へ発信し普及させた。これは看護のイノベーションモデルとして、従来の看護職の役割を拡大させた。また、医療の場が地域へと転換し、看護専門外来を受診する患者も地域に暮らしていることから、訪問看護も外来と繋ぐ看護職の役割であるため、看護専門外来運用と訪問看護ステーションの訪問看護のアウトカムを検証した。

研究成果の概要（英文）：The system of nursing special visitors which a nurse with professional competence and a midwife manage and which cooperated with the visitors of the medical-examination section to the university hospital of the model as visitors was developed, and it was made to send and spread through the whole country.
This made the role of the conventional nursing job expand as an innovation model of nursing.Moreover, the medical place converted into the area, and since the patient who consults nursing special visitors also lived in the area, and it was a role of the nursing job which also connects home nursing care with visitors, the outcome of the home nursing care of nursing special visitor employment and a home nursing station was verified.

研究分野：看護管理学

キーワード：看護専門外来　看護専門外来受診患者　看護専門外来評価　訪問看護ステーション　訪問看護評価

１．研究開始当初の背景

今日の医療環境の課題は、医師不足による病院や診療科の閉鎖、超高齢化による医療費問題などであり、入院日数を減らした在院日数短縮化が推進され、在宅医療へと移行している。

しかしながら、地域では独居や高齢者、核家族による介護者の不足・不在など、地域の在宅における療養環境には厳しいものがある。急激な社会の医療システムの転換により、在宅医療を支える訪問看護もまだまだ整わず、さまざまな課題がある。今後、利用者が安心して在宅で療養できるシステムの構築が求められている。

(1)　米国においては、専門性の高い能力を発揮する高度実践看護師として NP（Nurse Practitioner）制度が法制化されている（森田、2009）。資格をもつ優れた知識と判断力・実践力を備えた看護師が、独自の診療のための外来をもち看護診断や必要時処方をおこなっている。NP は修士課程（2015 年より博士課程）で看護学を学んだ優れた看護師であり、医師と連携した独自の看護外来をもち看護診断をして特定の医行為も行い、医療費を払えない患者や過疎地域の医療も担っている。

(2)　我が国においても、大学院修士課程で高度な専門性を身につけた専門看護師と、認定看護師など、卓越した判断力と技術力を備え優れた看護職が活躍している。その専門性を活用し看護の専門サービス提供システムを構築することで社会のニーズに対応した役割を達成できる可能性がある。

(3)　我々は、このような実践力を活用して A 大学病院をモデルとして、リラクセーション外来、母性看護外来などの 9 分野の看護専門外来を開設した。患者の満足度と共に看護職自身の職務意欲の向上やキャリア開発に及ぼす効果が評価されている（岩永、2016）。

(4)　我々は、この看護専門外来システムについて、学術集会等を通じて国内へ発信してきた。他の医療機関においても、助産師外来・院内助産や、睡眠覚醒外来、子育て支援外来などの看護職による看護の専門外来が開設されるようになってきた。

２．研究の目的

本研究の目的は、医療機関で行われている看護専門外来の開設状況と実践内容を明らかにするとともに、訪問看護ステーションを含めた看護専門外来のアウトカムを評価することである。

(1)　看護師と助産師による看護専門外来を開設している医療機関、開設内容、サービス内容、活動する人材、患者の利用状況、診療報酬、課題などを明らかにする。
(2)　看護専門外来のアウトカム指標となる評価測定尺度を開発する。
(3)　評価測定尺度を使用した全国の看護専門外来のアウトカムを明らかにする。
(4)　訪問看護ステーションのアウトカム指標の開発と、訪問看護ステーションにおける在宅看護のアウトカムを明らかにする。

３．研究の方法

本研究は、次の 3 段階で遂行していく。
第 1 段階（1 年目）：調査対象とする医療機関と訪問看護ステーションの洗い出し、看護専門外来評価測定尺度と訪問看護ステーションの看護評価測定尺度の開発。指標の精選・追加・修正
第 2 段階（2 年目）：看護専門外来のアウトカム指標の完成と、全国の看護専門外来のアウトカム評価
3 段階（3 年目・4 年目）：訪問看護ステーションのアウトカム指標の完成と、全国の訪問看護ステーションの在宅看護のアウトカム評価。全体の公表、報告書作成

(1)　平成 24 年度（第 1 段階）調査対象とする医療機関の洗い出しと、評価測定尺度指標の検討と精選・追加・修正

全国の看護専門外来を開設している医療機関と、訪問看護ステーションを洗い出し、調査のための準備をする。看護専門外来については、社団法人日本看護協会や 47 都道府県看護協会の看護師と助産師の職能団体代のホームページ、全国の医療機関のホームページなどから看護専門外来を開設している情報を収集する。その内、専門看護師・認定看護師・特殊な技能の認定を有する者が看護専門外来を開設している医療機関を優先して抽出する。訪問看護ステーションについては、社団法人全国訪問看護事業協会の登録から無作為に抽出する。

看護専門外来に関するアウトカム指標の評価測定尺度については、A 大学病院の看護専門外来の調査結果をまとめた指標を基にさらに、調査項目を検討し洗練化を図る。

同様に、訪問看護ステーションに関する評価測定尺度の項目の検討と精選をする。

(2)　平成 25 年度（第 2 段階）看護専門外来のアウトカム指標の完成と、全国の看護専門外来のアウトカム評価

これまでの看護専門外来を受診した患者を対象とした調査結果も踏まえ、評価測定尺度を検討し、調査項目を精選する。看護の質

の評価に関する文献等も確認をして、調査票を完成させる。調査票は、患者用と看護職用を作成する。
　完成した調査票により、無記名による自記式質問紙調査を実施する。

(3)　平成 26 年度・27 年度（第 3 段階）：全国の訪問看護ステーションの在宅看護のアウトカム評価と、全体の研究成果の公表、報告書作成
　訪問看護ステーションで訪問看護を行っている看護職と、サービスを受けている利用者を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施する。初年度に洗い出した訪問看護ステーションを確認し、事業管理者に調査に関する説明をして同意が得られた訪問看護ステーションにおけるアウトカムを評価する。
　以上、実施してきた一連の看護専門外来に関するアウトカムと、訪問看護ステーションに関するアウトカムを総合的に評価して、公表する。

４．研究成果

(1)　看護専門外来のアウトカム指標の作成
①看護専門外来を受診している患者（利用者）と、サービスを提供している看護職用のアウトカム指標として、33 項目からなる 5 件法評価測定尺度を作成した。各項目の選択肢は、「非常によくあてはまる（5 点）」「当てはまる（4 点）」「どちらでもない（3 点）」「あまり当てはまらない（2 点）」「全く当てはまらない（1 点）」とした。質問項目の概念については、ドナベデイアンが提唱した看護の質評価の枠組みである構造・過程・結果から、看護専門外来を受診している患者への調査結果も踏まえて、項目を作成した。得点が高い程良好で満点は 165 点である。
②訪問看護ステーションの在宅看護アウトカム評価指標として、利用者用の尺度と、看護を提供している看護職用を作成した。本尺度は、35 項目からなり、各項目の選択肢は、「非常によくあてはまる（5 点）」「当てはまる（4 点）」「どちらでもない（3 点）」「あまり当てはまらない（2 点）」「全く当てはまらない（1 点）」とした。質問項目の概念については、上記 2 つの尺度と同様に、ドナベデイアンが提唱した看護の質評価の枠組みである構造・過程・結果から、訪問看護ステーションによる在宅での訪問看護を受けている利用者の状況を踏まえて、項目を作成した。得点が高い程評価は高く満点は 175 点である。

(2)　看護専門外来に関する調査結果
①がんに関する日本の看護専門外来の開設状況は（2015 年現在 IT 検索によるもの）、28 医療機関（国立法人の大学病院 4 機関、私立大学病院 4 機関、公立大学病院と総合病院 10 機関、私立病院 10 機関）であった。
　28 医療機関の看護専門外来における、がん看護に関する外来の名称は、看護専門外来やリンパ浮腫などの名称で外来が開設されていた（表 1）。その外来で患者に対応し、関わっていた看護職は、がん看護の専門看護師が最も多くを占め、次に多いのは認定看護師であった（図 1）。

表 1　看護専門外来のがん看護の名称

Domains	No	Domains	No
看護専門外来	13	がん看護相談	7
リンパ浮腫	11	化学療法	5
がん看護	9	乳がん看護	5
緩和ケア	8	その他	3

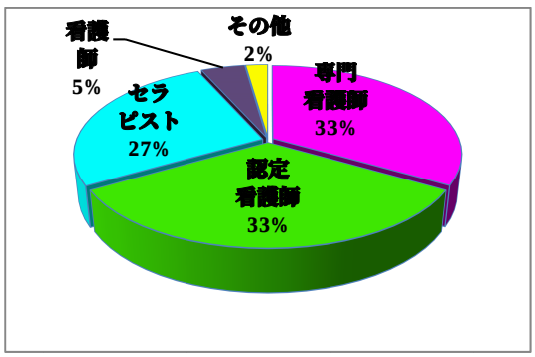

図１　がん看護専門外来の担当看護職種

②看護専門外来を受診している患者の状況とアウトカムについて
　全国の医療施設の看護専門外来を受診している患者 828 名を対象留め置きによる郵送法の質問紙調査を実施した。群馬大学疫学倫理審査委員会の承認（26-38）を受けた。
　56 名から回収され（有効回答率 6.8%）、女性 31 名（54.4%）、男性 25 名（43.9%）であった。看護専門外来の分野別受診状況（複数回答可）は、多かった順に、糖尿病 15 名、がん治療関連 11 名であった（図２）。
　受診のきっかけは、医師からの紹介 29 名（50.9%）が多く（図 3）、これまで看護専門外来の存在は知られていなかった（図 4）。看護の評価尺度得点は最小値 98 点から最大値 162 点で、平均得点は 133.8（SD13.9）点であった（図 5）。

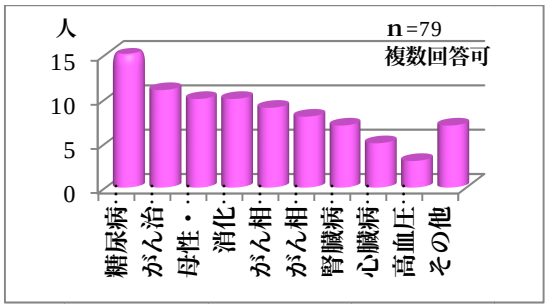

図２　看護専門外来の分野別受診状況

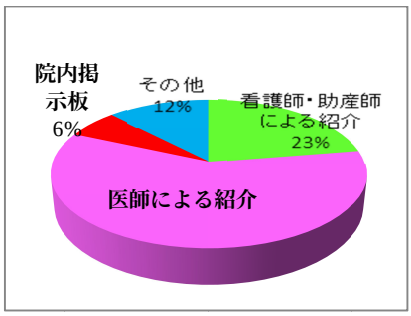

図３　看護専門外来の受診のきっかけ

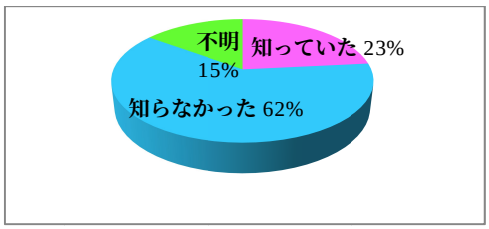

図４　看護専門外来についての認識

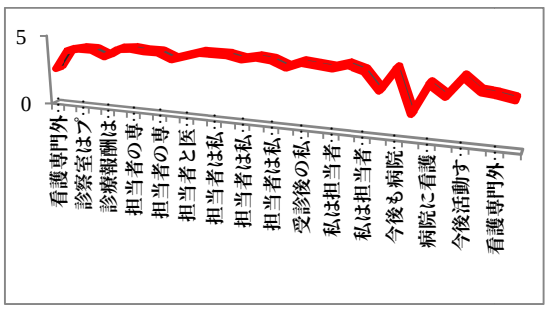

図５　評価尺度項目別得点

(3)　訪問看護ステーションに関する調査結果

①訪問看護を受けている利用者 1,000 名を対象に、作成した指標により 2014 年 11 月に質問紙調査を実施した。群馬大学疫学倫理審査委員会の承認を得た（26-38）。

回収数 180 のうち、尺度の記入漏れがない 122（有効回答率 12.2%）を分析した。女性 71 名（58.2%）、平均年齢 72.1（SD=21.5）歳であった。訪問看護を受けている理由（複数回答可）はリハビリ 33 名、入浴 31 名の順であった（図 6）。

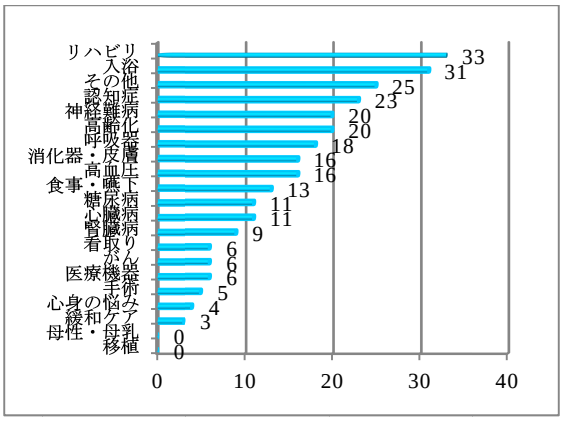

図６　訪問を受けている理由

②訪問看護ステーションに勤務する看護職 1,000 名を対象に、作成した指標により 2014 年 11 月に調査した。群馬大学疫学倫理審査委員会の承認を得た（26-38）。

123（有効回答率 12.3%）を分析し、主な活動内容は、健康状態の観察と助言、日常生活の看護などであった（図 7）。

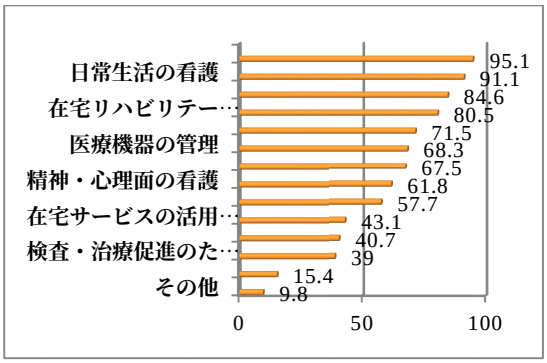

図７　1 週間の訪問看護活動内容

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3　件）

①<u>岩永 喜久子</u>、看護職の人材育成の探求-看護の力を発揮して活動する看護専門外来-THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、第 66 巻、2 号、2016、p83-89

②<u>小板橋喜久代</u>、臨床看護にリラクセーション法を取り入れることを目指して　看護介入としてのリラクセーション法の研究・教育・実践、-THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、第 65 巻 1 号、2016、p83-89

③<u>小板橋喜久代</u>、統合医療における看護力の再発見、日本統合医療学会誌、第 5 巻 2 号、2012、p84-87

〔学会発表〕（計 14　件）

①篠田静代，<u>岩永 喜久子</u>以下 2 名、通院放射線治療を受ける乳がん患者への外来看護の現状と経時的変化、第 30 回日本がん

看護学会学術集会．2016.2.20、千葉市
②岩永 喜久子，中村　美香、訪問看護ステーションにおける訪問看護評価尺度に関する研究,第35回日本看護科学学会学術集会．2015.12.6、広島市
③Kikuko Iwanaga、Innovations in Cancer Care Nursing in Japan，ENDA＆WANS CONGRESS 2015、2015.10.16、Hanover.
④岩永喜久子，中村美香、看護専門外来を受診する患者の状況と看護サービスアウトカム評価，第17回日本看護医療学会学術集会．2015.10.11、福井市
⑤岩永 喜久子，中村美香、在宅看護を担う訪問看護師の特徴と実践活動内容，第19回日本看護管理学会学術集会、2015.8.28、郡山市
⑥今井裕子，中村美香，岩永喜久子、倫理的課題における専門看護師の他職種への対応内容，一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会、2015.8.23、広島市
⑦杉田歩美，中村美香，岩永 喜久子、以下2名、学部教育で統合実習を経験して入職した新人看護師の臨床における意識，一般社団法人日本看護研究学会、第41回学術集会、2015.8.22、広島市
⑧中村美香，今井裕子，杉田歩美，岩永喜久子、急性期病院に勤務する看護師のエラーの影響要因，一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会、2015.8.22、広島市
⑨辻村弘美，岩永喜久子、縮約版おだやかスケールにおける得点と認知症高齢者の基本属性に関する考察-CDR,要介護度に焦点を当てて，第16回日本認知症ケア学会大会、2015.5.23、札幌市
⑩柳奈津子、桐山勝枝、岩永喜久子、小板橋喜久代以下3名、保健学研究科-看護部連携による看護職のための健康生成の取り組みの効果、日本看護研究学会第40回学術集会、2014.8.24、奈良県文化会館、奈良市
⑪岩永喜久子、常盤洋子、看護職による看護専門外来開設状況の特徴、第34回日本看護科学学会学術集会、2014.11.30、名古屋国際会議場、名古屋市
⑫岩永喜久子、常盤洋子、小板橋喜久代、臨床-教育連携による看護専門外来の利用者による評価、第33回日本看護科学学会学術集会、2013.12.7、大阪国際会議場、大阪市
⑬岩永喜久子、小板橋喜久代、常盤洋子、看護専門外来におけるエビデンスの構築と実践、2012.11.30、第32回日本看護科学学会学術集会、東京国際フォーラム、東京
⑭小板橋喜久代、統合医療の第一線は看護師である統合医療におけるホリスティックナーシングの実践者育成にむけて、日本統合医療学会、2012.1.14、大宮ソニックシティ（大宮市）

〔図書〕（計０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０　件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
ホームページ
群馬大学医学部附属病院
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

６．研究組織
(1)研究代表者
岩永　喜久子（IWANAGA KIKUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：４０３４６９３７

(2)研究分担者
小板橋　喜久代（KOITABASHI KIKUYO）
京都橘大学・看護学部・教授
研究者番号：８０１００６００

(3)研究分担者
常盤　洋子（TOKIWA YOUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：１０２６９３３４

(4)研究分担者
篠崎　博光（SHINOZAKI MITUHIRO）
群馬大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：３０３３４１３９

(5)研究分担者
柳　奈津子（YANAGI NATUKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・講師
研究者番号：００２９２６１５

(6)研究分担者
辻村　弘美（TUJIMURA HIROMI）
群馬大学・大学院保健学研究科・講師
研究者番号：７０３７５５４１

(7)研究分担者
桐山　勝枝（KIRIYAMA KATUE）
群馬大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：７０４１２９８９

(8)研究分担者
中村　美香（NAKAMURA MIKA）
群馬大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：１０６４４５６０